

血による救い

「彼らは血を取って、それを[過越の]子羊を食べる家の二つの戸口と鴨居に塗らなければならない。」

出エジプト記12章7節

3月と4月の春の季節を迎えるにあたり、世界中のクリスチャンは主イエス・キリストの死と復活を特別に記念するために集まります。ほぼ同じ時期に、ユダヤ教徒も過越の祭りを祝うために集まります。

それぞれの集団は、自らの暦と長く受け継がれてきた伝統に基づいて、これらの宗教的行事を行う正確な時期を決定します。時にはこれらの行事が数日しか離れていないこともあれば、数週間離れていることもあります。聖書の記録によれば、イスラエルの過越の小羊は、彼らの月の14日目、アビブ（後にニサンと呼ばれる）に屠られました。

（申命記16:1、ネヘミヤ記2:1）。これは私たちの暦では、年によって3月または4月に相当します。

キリスト教徒もユダヤ教徒もこの時期にこれらの重要な出来事を祝いますが、罪に病んだ人類の救い主として死んだイエスの死と復活の真の意味と重要性を理解する者はほとんどいません。ユダヤ教の過越祭の完全な意味を理解する者もまた稀です。使徒ペテロは、多くの人々が神の深遠な真理を理解する目が曇っていると説明しました。「神

は、その神聖な力によって、敬虔な生活に必要なすべてのものを私たちに与えてくださいました。私たちは、驚くべき栄光と美しさをもって私たちを御自身のもとに招いてくださった方、すなわちイエス・キリスト（ ）を知ることによって、これらすべてを受け取ったのです。...しかし、このように成長しない人々は、近視眼的で盲目であり、かつて古い罪から清められたことを忘れていています。」（ペテロの手紙二 1:3,9）

神の教え

この聖句が記された当時、イスラエルの民はエジプトに捕らえられていた。時が満ちると、神はイスラエル人に、屠られた過越の小羊の血を「家の両側の柱と、戸口の上の楣に塗る」よう命じられた。また、子羊を焼いて、種入れぬパンと苦菜とともに食べるよう命じられた（出エジプト記 12:8）。この文脈は、神がイスラエル人に与えた特別な指示に関連する他の重要な詳細と視点も提供している。

「主はモーセとアロンにこう命じられた。『今からこの月を、あなたがたの年の初めとする。イスラエルの全会衆に告げよ。この月の十日に、各家族は犠牲として子羊か子山羊を選び、一世帯ごとに一頭ずつ用意せよ。家族が少なくても一頭を食べきれない場合は、近隣の家族と分け合え。各家族の規模と食べられる量に応じて分けなさい。選ぶ動物は、一歳の雄の子羊か子山羊で、欠点のないものでなければならない。この選ばれた動物を、この最初の月の十四日の夕方まで、特に大切に扱いなさい。そして、イスラエルの共同体全体が、

夕暮れ時にその子羊または子山羊を屠らなければならない。」出エジプト記12:1-6

屠られた子羊

これらの明確な指示には、多くの重要な象徴性が込められている。例えば、「エジプトの地」への言及は、サタンが現在、地とその民を支配していることを指し示している。「この世の神 [サタン] は、不信者の心を盲目にし、神の御姿であるキリストの栄光の福音の光を見えないようにしている。」（コリント人への第二の手紙4:4）

「月の初め」は過越祭を祝う正確な日を計算する基準であった。春分点に最も近い新月がユダヤ暦最初の月アビブの始まりを示した。犠牲の羊は最初の月の「十日目」に選ばれることになっていた。これは、世界の罪を取り除く「神の小羊」として、ゼカリヤの預言を成就するために将来エルサレムに来られるイエスを予表していた。（マタイ21:1-9、ヨハネ1:29、ゼカリヤ9:9）さらに出エジプト記12章の記述によれば、小羊は一歳の雄で、傷のないものでなければならなかった。これは将来の傷のない「神の小羊」としてのイエスの完全性を表していた（ペテロ第一1:19）。過越の小羊は「その月の十四日」に屠られ、その夜に食べられた。過越の祭り（無酵パンの祭りとも呼ばれる）は翌日から始まり七日間続いた。出エジプト記12:15-17

初子—血の下に

これらの指示に加え、こう記されている。「今夜、わたしはエジプトの国を巡り、エジプトの地のすべての初子を、人と獣とを問わず打つ。またエジプトの神々すべてに裁きを下す。わたしは主である。血は、あなたがたが住む家々のしるしとなる。わたしがその血を見るとき、あなたがたを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす災いがあなたがたに及ばない。この日はあなたがたにとって記念の日となる。代々、主への祭りとして守り、永遠の定めとして祝うのだ。」出エジプト記12:12-14

これらの聖句では、エジプトの地を「夜」に通過することが言及されている。これは、ペンテコステ以来神の民が通過してきた罪と死の暗い夜を表している。（コロサイ人への手紙 1:13; ペテロの手紙一 2:9）「初子」は「天に記された初子の教会」を象徴する。彼らは小羊の血の下にあり、キリストの御国の天的な段階に与ろうと努めている。ヘブル人への手紙12:23

イスラエルの長子は後に、神に属すると数えられたレビ族全体と取り替えられた。「主はモーセに言われた。『見よ、わたしはイスラエル人の中からレビ族を選び、イスラエルの民のすべての長子の代わりに仕えさせる。レビ人はわたしのものである。すべての初子はわたしのものであるからだ。わたしがエジプト人のすべての初子を打った日に、わたしはイスラエルのすべての初子、すなわち人と家畜とを、わたしのものとした。彼らは

わたしのものである。わたしは主である。」民数記3:11-13

記念または追憶

血は命を象徴し、過越の小羊が屠られた時、それは犠牲に捧げられた命を表した（レビ記17:11）。犠牲の小羊の血は、神の御心に従い、数世紀後に罪に病んだ人類の家族のために塗られることになる、我らの主イエスの尊い血を表すために用いられた。私たちの主の犠牲の血こそが、アダムとエバが神の律法に背いたために下された死の宣告から救われる唯一の手段である。ペテロの手紙第一1:18,19; ヨハネの黙示録 1:5

神はイスラエルの民に、この出来事の特定の時を覚え、毎年それを記念として守るよう命じられました。「この日はあなたがたにとって記念の日となる」（出エジプト記12:14）。これは、イエスと弟子たちが上階の部屋に集まった時に制定された、より偉大な記念式を象徴するものです。その時、イエスは弟子たちに、ご自身の体を表すパンと、ご自身の犠牲の血を示す杯を分かち合うよう求められました。そして「これを私の記念として行いなさい」と告げられました（コリント人への第一の手紙11:23-26）。数時間後、イエスは世の罪のために死なれるのでした。

ルカの記述を引用すると、こう記されている：
「[イエスは]パンを取り、感謝をささげてから、それを裂いて[弟子たちに]与え、言われた。『これは、あなたがたのためにささげられるわたしのからだである。わたしの記念として、これをしなさい

い。』また、夕食の後、同じように杯を取って言われた。『この杯は、あなたがたのために注がれるわたしの血による新しい契約である。』」ルカによる福音書22章19節、20節

災い

神の定めた時の時計が鳴り響いた時、それはイスラエル人がエジプトの奴隷状態から解放される時を告げた。彼らが長年待ち望んだ救いが訪れたのである。しかしファラオとその役人たちは彼らを解放しようとはしなかった。彼らはイスラエル人を約束の地カナンへ行くことを許そうとしなかった。主は次々と様々な災いをエジプトの民に下したが、ファラオが慈悲を求め、守るつもりもない約束をした時には彼らを救った。出エジプト記7章から10章を参照。

ついに神の僕モーセは第十の最終的な災いを告げた。エジプトの全ての家の長子が大いなる災いに遭い、一夜にして皆死ぬという。最も貧しい農民の家からファラオの宮殿に至るまで、エジプト全土に深い悲嘆が広がり、彼らは喜んでイスラエル人を去らせるだろう。出エジプト記11:1-8

モーセの宣告通り、「その夜、真夜中に、主はエジプトの地のすべての初子を打たれた。ファラオの王座に座るファラオの初子から、牢獄の囚人の初子まで。家畜の初子までもが殺された。ファラオとすべての役人、エジプトの民は夜中に目を覚まし、エジプト全土に悲鳴が響き渡った。死者が一人も出なかった家などなかった。ファラオは夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せた。「出て行

け！」と命じた。「わが民を去らせよ。残りのイスラエル人も連れて行け！」 お前たちの願い通り、主を礼拝しに行け。お前たちが言った通り、家畜も連れて行け。行け、だが去る際には私を祝福せよ。」エジプト人たちは皆、イスラエルの民に「急いでこの地から出て行け。我々も皆死ぬだろう」と言い、彼らを急かした。出エジプト記 12:29-33

旅の準備

出エジプト記7章から10章に記されているように、最初の三つの災いはエジプト全土に共通して降りかかりました。イスラエル人が住んでいた地域も例外ではありませんでした。しかし、次の六つの災いはエジプト人が住む地域のみに影響を及ぼしました。第十の災い、すなわち最後の災いは、血の印の下にあったイスラエル人に割り当てられた地域を含む、エジプト全土に共通して降りかかると宣言されました。

イスラエルの子らは、犠牲の羊を用意し、その血を戸口の両脇と鴨居に塗ることで、神の御心への信仰と従順を示すよう命じられていた。その肉は苦い野菜と種入れぬパンと共に、その夜のうちに食べられねばならなかった。彼らは、家の門柱と鴨居に塗られた子羊の血によって「血の下に留まる」ことで、神がエジプトの初子を死で打たれる災いに巻き込まれないと完全に信じていた。子羊を食べた者たちは、杖を手に旅支度を整え、神がエジプト人に彼らを去らせる意志を持たせると期待して待機した。出エジプト記12:7-13

律法の特徴

イスラエル人は、モーセを通して神から与えられたこの過越の祭りを毎年覚えて祝うよう命じられた。これは彼らの最も重要な国家的記念祭の一つであり、この古代の慣習の意味に対する敬意の表れとして、今も世界中のユダヤ人によって祝われている。

モーセの律法の多くの特徴は、神の定められた時と適切な順序において、地上のすべての家族に注がれる様々な祝福を予表するよう、神によって設計された。過越の祭りの場合、子羊の死は完全な人間としてのイエスの死を予表した。子羊の血を振りかける行為は、罪と死の夜に過ぎ越された者たちへ、イエスの身代金の犠牲の功績が帰せられることを象徴した。イスラエル人の場合と同様に、この「初子」の階級こそが、子羊の流された血の恵みを最初に受ける者たちである。（ヨハネの手紙第一 1:7；エペソ人への手紙 1:3-7）。信仰の目をもってイエスがまことに神の小羊であると見る者は幸いである。イエスの血によって、アダムの罪の帳消しが可能となった。それはアダムの罰、すなわち全世界が神の恵みを失い、死の神の宣告下に置かれたその罰の支払いを伴うものであった。

この死の呪いとそれに伴う悲しみと苦痛の苦しみを取り除く前に、正義の満足が提供される必要があった。聖書が宣言するように：「それゆえ、一人の（アダムの）罪によって、すべての人が罪と定められて裁きを受けたように、一人の（イエスの）義によって、すべての人が義と認められてい

のちを得るといふ賜物を受けたのである。」ローマ5:18

初穂

神の聖霊に動かされた啓示者ヨハネは記した。

「見よ、小羊がシオンの山に立っておられ、その額には御父の名と御子自身の名が記された百四十四万人が共に立っていた。すると天から、大水の音のようであり、また大いなる雷鳴のようであり、また豎琴を弾く者の音のような声が聞こえた。彼らは玉座の前と、四つの生き物の前と、長老たちの前で、新しい歌を歌った。この歌を覚えることができたのは、地から買い取られた百四十四千人のみであった。彼らは女に汚されなかった者たちである。彼らは身を清く保ったからである。彼らは小羊がどこへ行くにも従う者たちである。彼らは、神と小羊への初穂として、人々の中から買い取られた者たちである。」黙示録14:1-4

この神の靈感を受けた言葉は、栄光に輝くキリスト、すなわち頭と体とを「神と小羊への初穂」として指し示している。これは、愛する天の父の究極の計画と目的において「後の実」も存在することを示唆している。まさにその通りである。神のご計画は、イスラエルの長子だけでなく、すべての子供たちを救うことだった。彼らは国家として、将来の約束の地—回復された完全な地—において神との調和に入り、永遠の命を与えられる機会を与えられる全人類を代表する存在であった。

こうしてイスラエルの民全体は、モーセを通して主によって奇跡的に救い出された。彼らはモーセ

に導かれ、風と潮を支配する神の力によって特別に用意された紅海の海峡を渡る道を進んだ（出エジプト記14:21-30）。一人残らず救われた。この驚くべき出来事は、全世界がサタンの力から最終的に救い出されることを示している。すべての人々は、キリストが将来地上を統治する支配のもとで確立される義の法に調和する機会を与えられる。まさに、使徒パウロが記した言葉を繰り返すことができる。「キリスト・イエスは、すべての人のための身代金としてご自身をささげられた。それは、定められた時に証しされるためである。」
（テモテへの手紙一 2:6）

二つの成就

死からの救いは、神の死の天使が通り過ぎる時、イスラエルの長子たちが小羊の血の下に留まることに依存していた。血の下にいて死にさらされていたのは彼らだけだった。過越の図に示されているように、その夜、彼らは皆救われた。このように、イスラエルの長子たちは小羊の血の振りかけの直接の受益者であった。

現在のキリスト教時代においても、イエスの足跡をたどる者たちは血の下にいる。彼らはイエスの血の功績を受け入れ、その保護の下にある（ヨハネの手紙一 1:7）。彼らは世に先立って召された。理解の目が開かれ、自らの罪と束縛の状態、そして救いが必要なことを悟ったのである。（エペソ 1:18）彼らは神の驚くべき恵みに応え、完全な献身をもって自らの命を神に捧げた。（ローマ12:1）
「神の小羊」の流された血への信仰ゆえに、彼ら

は「父と、その子イエス・キリストとの交わり」を持っている。(1ヨハネ1:3)

使徒パウロは、現世における献身がイエスの死へのバプテスマを意味すると説明している。「あなたがたは知らないのか。私たち多くの者がイエス・キリストにバプテスマを受けたのは、彼の死にバプテスマを受けたのである。それゆえ、私たちはバプテスマによって彼の死に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちもまた、新しいいのちを歩むためである。もし私たちが彼の死の姿に植えられたなら、彼の復活の姿にもあずかるのです。」ローマ人への手紙6:3-5

神に命を捧げた者たちが、今もなお尊い血の注ぎの下に留まり続けることは、最も重要なことです。この恵みの状態から離れることは、愛する天の父の憐れみを軽んじることを意味する。それは、神の良さを理解せず、イエスの血の救いの力に与ることを感謝していないことを示すのである。「真理の知識を受けた後で、故意に罪を犯すなら、もはや罪のためのいけにえは残されていない。」へブル人への手紙10:26

全世界の救い

「初子たちの教会」の成員は、世界より先にイエスの血の功績を受け取っています。キリストは「今や天そのものに入り、私たちのために神の御前に現れておられる」(へブル9:24)。教会が完成する時、私たちの救い主の血の功績、すなわち価値が、全人類に利用可能となるのです。イエスは

言われた。「わたしは良い羊飼いです。わたしの羊を知っており、わたしの羊もわたしを知っている。父がわたしを知っておられるように、わたしも父を知っている。わたしは羊のために命を捨てる。また、この囲いにはいない別の羊がいる。彼らも連れて来なければならない。彼らはわたしの声に聞き従う。こうして一つの囲い、一つの羊飼いとなるのである。」ヨハネによる福音書10:14-16

エジプトの地で起こった第二の偉大な恵みは、モーセに導かれて紅海を渡ったイスラエル民族全体の救出であった。この驚くべき出来事は、罪と死の束縛から全人類が究極的に回復されることを象徴している。約束された祝福は、キリストの王国の確立と新約の条件のもとで世界に与えられる。

(エレミヤ31:31-34) その時、義に従い、より偉大なモーセである主イエスに従うことを望む者すべてに、アダムの罪によって失われたいのちの権利が与えられる。申命記18:15-19; 使徒3:20-25

罪と死の長い夜は過ぎ去り、救いの輝かしい朝が訪れる。(詩篇30:5) 頭であり体であるキリストが、イスラエル全体、神の民すべてを導き出し、救い出す。その時、すべての人は神の御心を知り、それを畏れ敬い、尊び、喜んで従うようになる。使徒15:16,17; ローマ11:26-36

私たちの過越のキリスト

使徒パウロがコリントの兄弟たちに手紙を書いたとき、こう告げた。「古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、すでにパン種のないものとなっているのだから、新しい生地となるためです。私たちの過越の羊であるキリストが、すでに犠牲にされたのです。ですから、古いパン種、すなわち悪意と悪のパン種ではなく、誠実と真実のパン種をもって、この祭りを祝いましょう。」（コリント人への第一の手紙5:7,8）

この聖句において、使徒は天に名を書かれた「初子たちの教会」（ヘブル12:23）に語りかけている。彼は彼らに、悪意と悪の酵母に象徴されるあらゆる罪と不義から自らを清めるよう戒めた。代わりに、彼らは無酵のパンに与ることで示されるように、義と真理を求めなければならなかった。

象徴的な子羊を食べることで、私たちはキリストの功績を自らのものとする。また、私たちの力の及ぶ限りでキリストを「身にまとう」ことにより、私たちはキリストの栄光ある姿と性質へと変えられていくのである（ローマ12:2; 13:14; ガラテヤ3:27）。私たちは、ユダヤ人が過越の小羊を食べたように、キリストを糧とするのです（ ）。イスラエル人の食欲を刺激し助けた苦い野菜は、私たちの苦い経験と試練を象徴していました。これらは、私たちの情愛を地上のものから離す助けとして与えられ、真理の小羊と種入れぬパンをますます貪り食う食欲を私たちに与えるのです。

この世に「私たちの住むべき都はない」。むしろ旅人であり寄留者として、杖を手に天のカナンの地への旅路に備えて進みます（ヘブル13:14、ペテロ第一2:11）。愛する天の父が、長子たる教会のために備えておられるすべての栄光の祝福は、「神の小羊」とその救いの血の功績を忠実に受け入れた者たちに与えられる。エペソ人への手紙1:3-7

祭りを守りましょう

まもなく、多くの人々が再び集い、偉大な過越の小羊としてのイエスの死を記念する。今年もこの祭りを守るにあたり、私たちのために流されたイエスの尊い血を喜び祝おう。やがてこの血の証し世界に示される時が来るのだ。「さて、永遠の契約の血によって、大いなる羊飼いである私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた平和の神が、あなたがたを、御心に適うことを行うために、あらゆる良いわざにおいて完全にしてくださいように。イエス・キリストによって、その御目に喜ばれることをあなたがたのうちに働かせてくださいように。栄光が、永遠に、また永遠に、キリストにあるように。アーメン。」ヘブル人への手紙13:20,21